

3章 都市づくりの基本方針

3-1 萩市全体の基本方針

萩市の最上位計画である『萩市基本ビジョン』（平成30年7月策定）では、「暮らしの豊かさを実感できるまち」をめざすまちの姿として、7つの基本方針を掲げています。

立地適正化計画では、この基本ビジョンで掲げる基本方針とそれらを支える3つの構想、萩市都市計画マスタープラン（平成23年3月策定）における将来都市構造をふまえ、都市空間としての基本方針を定めます。

◆都市空間づくりの目標◆

地域特性に応じた機能分担と相互補完による「核・地域連携型」の都市構造形成

三角州を中心に形成された市街地を都市拠点、都市計画区域外の市総合事務所を中心とした集落を地域拠点として、それぞれの地域特性に応じた機能を分担し、相互に補完する連携型の都市構造を目指します。

基本方針

①都市拠点の機能強化

萩地域の三角州を中心とした市街地を都市の中心として、市民全体の都市活動を支える都市機能を誘導し、賑わいのある「都市拠点」の形成を図ります。

→立地適正化計画制度を活用

②地域拠点の維持・確保

萩地域以外の中心集落では、都市拠点の補完機能や日常生活を支える行政サービス機能の充実を図り、日常生活圏での利便性を確保する「地域拠点」の形成を図ります。

→「やまぐち元気生活圏づくり」・「小さな拠点づくり」と連携

③都市間・拠点間を結ぶ連携軸の形成

周辺都市と都市拠点、都市拠点と地域拠点を結ぶ交通網を整備し、多様な交通手段の確保により都市間・拠点間の連携を強化する「連携軸」を形成します。

→「萩市地域公共交通網形成計画」と連携



「やまぐち元気生活圏づくり」とは？

中山間地域では人口減少や高齢化が急速に進み、人手不足のため、これまで集落単位で行ってきた草刈りなどの共同作業が難しくなったり、食料品や日用品などの生活必需品を扱う商店や診療所などの減少や、バスなどの公共交通機関の減便などによって買い物や通院、通学などが不便になっている地域もあります。







このため、国が進める「小さな拠点づくり」と同様の取組として、山口県では、中山間地域の人々が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、「やまぐち元気生活圏」づくりに取り組んでいます。



将来都市構造図（萩市全体）



▼各ゾーン・拠点・軸の位置づけ

名称	位置づけ
 市街地ゾーン	萩地域の市街地を「市街地ゾーン」として位置づけます。
 山林・農地ゾーン	都市計画区域内の市街地ゾーン外及び都市計画区域外を「山林・農地ゾーン」として位置づけます。
 都市拠点	三角州を中心に形成された市街地を「都市拠点」として位置づけます。
 地域拠点	都市計画区域外の市総合事務所を中心とした集落を「地域拠点」として位置づけます。
 都市間連携軸	山陰自動車道や萩三隅道路、小郡萩道路を「都市間連携軸」として位置づけます。
 地域間連携軸	都市拠点と地域拠点をつなぐ国道や主要な県道を「地域間連携軸」として位置づけます。

1章
計画策定の概要

2章
萩市の現状・将来と課題

3章
都市づくりの基本方針

4章
都市機能誘導区域・誘導施設

5章
居住誘導区域

6章
誘導施策

7章
計画実現に向けて

用語解説

3-2 立地適正化計画区域の基本方針

3-2-1 まちづくりの理念と目標

萩都市計画区域は、その歴史的な背景などから次のような特徴ある市街地特性をもっています。

萩市街地の特徴

◆地形条件や歴史的経緯等から既にコンパクトな都市構造

萩都市計画区域は、地形条件や歴史的経緯から、三角州を中心とした市街地の中に人口や都市機能が集積したコンパクトな都市構造となっており、多くの市民が便利な都市生活を送っています。

◆都市活動や産業活動の中心として機能

夏みかん等の農産物や優良漁場の海産物、萩焼等の伝統工芸品など、多様で豊富な地域資源をいかした産業が発展し、広い市域における都市活動・産業活動の中心としても機能しています。

◆城下町の町割り・街並みが色濃く残る貴重な景観が形成

江戸時代の地図がそのまま使えるまちと言われるほど城下町の町割りや街並みが面的に残っており、「萩市景観計画」に基づく高さ規制等の取組により歴史的風致の維持が図られています。（用途地域のほぼ全域が「歴史的風致維持向上計画」における重点区域に指定）

このように、萩都市計画区域の市街地は市民生活の中心地（都市的な土地利用）であると同時に、歴史的風致を維持向上すべきエリアでもあることから、他都市とは異なる萩独自の暮らし方が展開されています。

萩らしい暮らし方

- 都市部でも（緑あふれる庭付きの戸建て住宅等で）ゆったりとした暮らし環境が確保
- コンパクトな市街地の中で徒歩や自転車、公共交通により便利な都市生活が送れる
- 歴史的価値の高いまちなみのなかで萩独自の魅力的な都市生活が送れる



▲江戸時代からの歴史的風致が残る萩市街地での暮らしイメージ

出典：萩市観光協会ホームページ

このため、『萩市基本ビジョン』において“めざすまちの姿”として掲げる「暮らしの豊かさを実感できるまち」をまちづくりの理念とし、居住や都市機能を緩やかに誘導することで暮らしやすく魅力ある市街地環境を保全・向上していくとともに、萩の歴史・文化を受継ぎながら産業振興や次代を担う人材育成等により、まちの活力を再生することで、何十年後も住み続けられる持続可能なまちづくりを目指します。

◆まちづくりの理念◆

～暮らしの豊かさを実感できるまち～

◆まちづくりの目標◆



3-2-2 立地適正化の基本方針

まちづくりの理念と目標を実現するため、立地適正化の基本方針を以下のように定めます。

基本方針Ⅰ：高次な都市機能を集積し、萩市民全体の都市活動を守る

都市拠点において医療や商業などの高次な都市機能を維持・集積し、公共交通との連携により、市民全体の都市活動の場を維持します。

- 都市拠点における高次な都市機能の維持・誘導
- 都市拠点へアクセスする公共交通の確保



基本方針Ⅱ：産業施策と連携した都市空間形成により、都市の活力を向上させる

人口の定住化や若い世代の流出を抑制するには、働く場の確保が重要なことから、地場産業の再生や新たな産業の創出等、地域産業振興に関する施策と連携した都市空間の形成を図り、都市の活力を向上させます。

- 空き家や低未利用地を活用した産業活動空間の確保（雇用確保による若年層の定住化）等



基本方針Ⅲ：まちなかの人口を維持し、暮らしやすい生活環境を守る

三角州を中心とした市街地（＝まちなか）の人口や生活利便施設を維持し、車がなくても日常的な買い物や通院等が身近で容易に行える便利な暮らし環境を維持します。

- まちなかの生活利便施設の維持（人口密度維持）
- 歩いて暮らせるまちづくり、健康・医療・福祉のまちづくり（健康寿命の延伸）
- まちなかを回遊する公共交通の確保



基本方針Ⅳ：歴史的まちなみを活用した、魅力と賑わいあふれる観光拠点を形成する

堀内、浜崎地区をはじめとした歴史的景観が良好に残る地区の居住人口を維持し、人々の暮らしと歴史文化が調和した萩らしいまちなみ景観を保全するとともに、観光資源を活用した交流の場と賑わいを創出し、魅力ある観光拠点の形成を図ります。

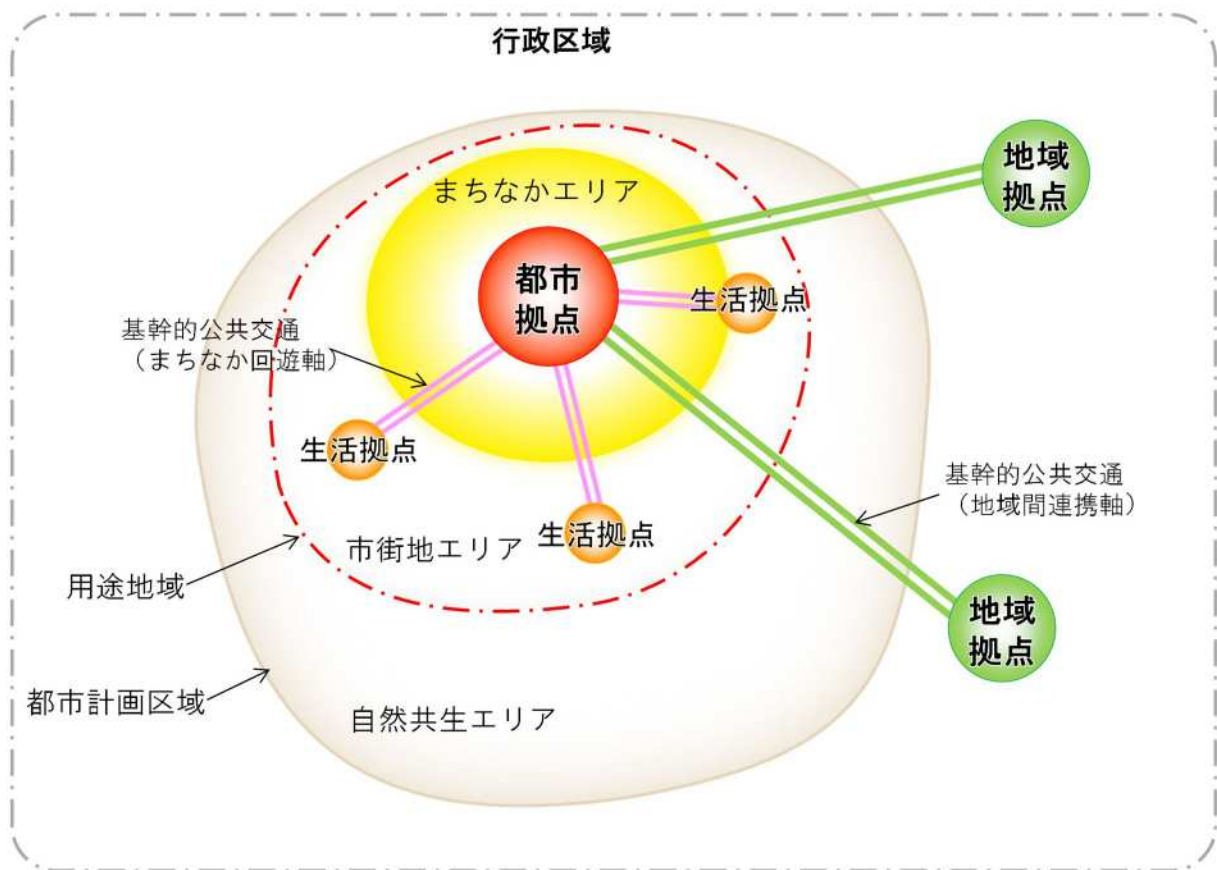


3-2-3 将来都市構造

萩市では、現在も用途地域内に人口や都市機能が集積したコンパクトな市街地が形成されています。人口減少下においても持続可能なまちづくりを目指すため、市役所周辺を「都市拠点」、東萩駅、萩駅、玉江駅を「生活拠点」として位置づけ、主要な都市施設や観光交流施設等を連絡する「まちなか回遊軸」により各拠点の連携強化を図ります。

また、三角州内の中心市街地周辺を「まちなかエリア」として位置づけ、徒歩や自転車、公共交通により便利で豊かな都市生活が将来的にも行えるエリアとして積極的に居住を誘導していきます。

これらを総合的に取り組むことで、コンパクトで暮らしやすい「持続可能な都市構造」を目指していきます。



▲将来都市構造の概念図

1章
計画策定の概要

2章
萩市の現状・将来と課題

3章
都市づくりの基本方針

4章
都市機能誘導区域・誘導施設

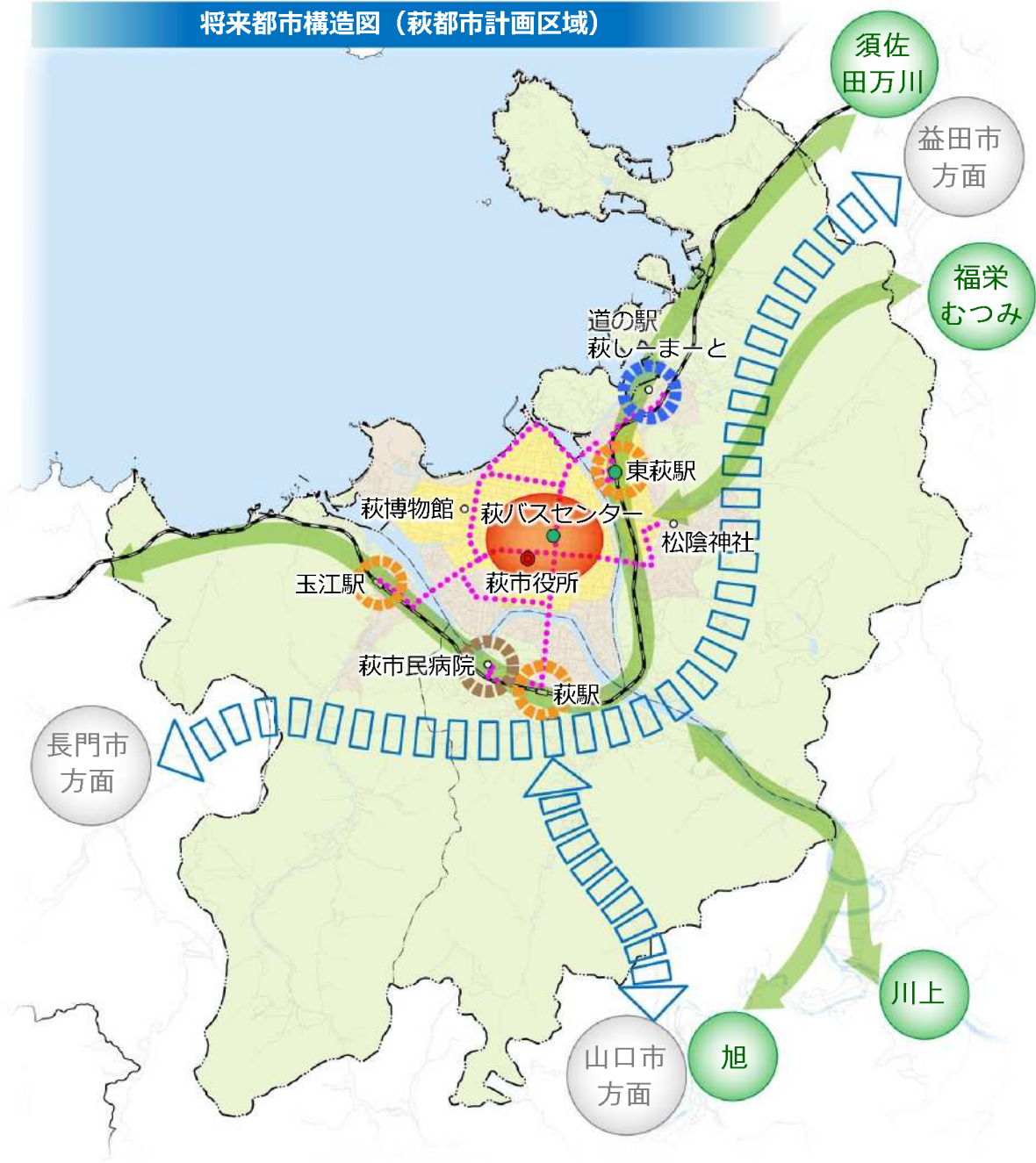
5章
居住誘導区域

6章
誘導施策

7章
計画実現に向けて

用語解説

将来都市構造図（萩都市計画区域）



凡例					
	: 都市拠点		: 医療・福祉拠点		: 都市間連携軸
	: まちなかエリア		: 交流拠点		: 地域間連携軸
	: 市街地エリア		: 生活拠点		: まちなか回遊軸
	: 自然共生エリア		: 交通結節拠点		: 用途地域
	: 地域拠点				: 都市計画区域

▼拠点・軸・エリアの位置づけと方針

名 称		位置づけと方針
拠 点	 都市拠点	高次な都市機能が集積する市役所及び萩バスセンター周辺のエリアを「都市拠点」として位置づけ、市域全体からみた都市の中心として、行政、文化、子育て、商業などの高次な都市機能の維持・集積を図ります。
	 生活拠点	生活利便施設が集積する東萩駅と萩駅、玉江駅周辺を「生活拠点」として位置づけ、日常生活に必要な都市機能の維持を図ります。
	 医療・福祉拠点	萩市民病院周辺を「医療・福祉拠点」に位置づけ、他の関連施策と連携しながら、市民全体の高次な医療・福祉サービスを提供する拠点として、既存機能の維持強化を図ります。
	 交流拠点	道の駅萩シーマーと周辺を「交流拠点」に位置づけ、他の関連施策と連携しながら、市内外との交流を促進する拠点として、既存機能の維持強化を図ります。
	 交通結節拠点	萩バスセンターと東萩駅を「交通結節拠点」に位置づけ、他の関連施策と連携しながら、市域全体と都市拠点を連絡する公共交通機能の確保を図ります。
交 通 軸	 都市間連携軸	山陰自動車道や萩三隅道路、小郡萩道路を「都市間連携軸」として位置づけ、周辺市町との広域的な連携強化を図ります。(車・高速バス等)
	 地域間連携軸	都市拠点と地域拠点をつなぐ国道や主要な県道を「地域間連携軸」として位置づけ、多様な交通手段の確保により拠点間の連携強化を図ります。(鉄道・路線バス等)
	 まちなか回遊軸	主要な都市施設や観光交流施設を連絡する主な公共交通路線を「まちなか回遊軸」として位置づけ、まちなかの回遊性向上を図ります。(コミュニティバス等)
エ リ ア	 まちなかエリア	中心市街地と伝統的建造物群保存地区周辺を「まちなかエリア」として位置づけ、徒歩や自転車、公共交通により便利で豊かな都市生活が将来的にも行えるエリアとして、積極的に居住を促進します。
	 市街地エリア	用途地域内の「まちなかエリア」以外を「市街地エリア」として位置づけ、現在の居住者が便利な都市生活を送れるよう、日常生活に必要な都市施設(道路、下水道、公共交通施設等)を適切に維持・管理します。
	 自然共生エリア	用途地域外を「自然共生エリア」として位置づけ、地域や集落の存続に向けて、他の関連施策と連携しながら、現在の居住者が住み続けられる環境を維持します。

1章
計画策定の概要

2章
萩市の現状・将来と課題

3章
都市づくりの基本方針

4章
都市機能誘導区域・誘導施設

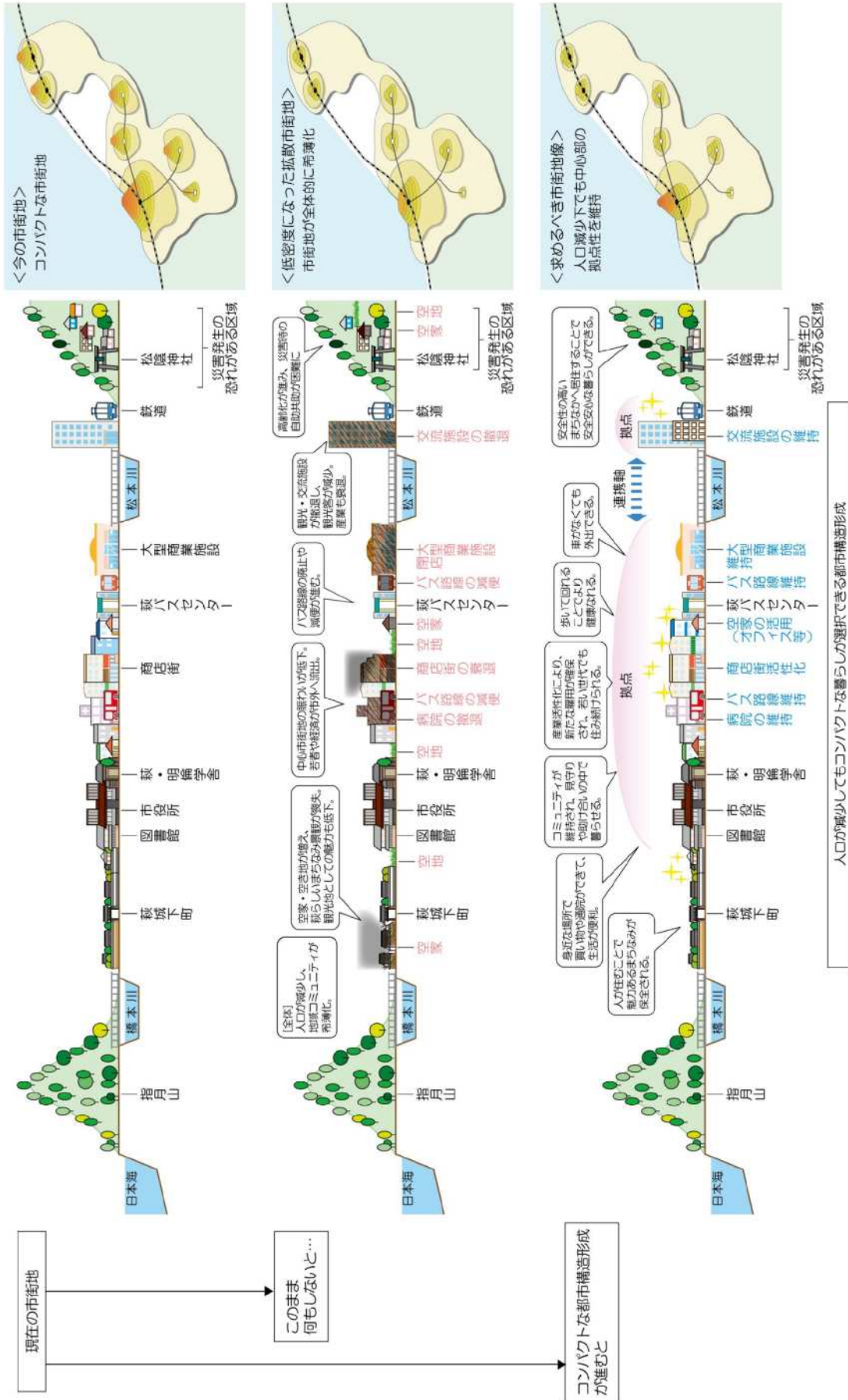
5章
居住誘導区域

6章
誘導施策

7章
計画実現に向けて

用語解説

◆萩市がめざすまちの姿イメージ◆



1章 計画策定の概要

2章 萩市の現状・将来と課題

3章 都市づくりの基本方針

4章 都市機能誘導区域・誘導施設

5章 居住誘導区域

6章 誘導施策

7章 計画実現に向けて

用語解説